

本来は自由な時間とか、意思決定できる幅とか、時間が多いから、一番いい時間なはずなのに。何もしひひんから、一番悪くなっている。

語り手 久泉 陽（高校七期生 I-T業界） 聞き手 星川 快鏑

—今日は改めてよろしく願います。高校二年生の星川快鏑と申します。よろしく願います。

—お願いします。

—では、まず一つ目から。高校時代はどんな生徒でしたか？

僕、めちゃくちゃ問題児で。今はかがやき推薦ってありますか？

—はい！あります。

僕、かがやき推薦で入ったのですよ。元々サッカーしていて、サッカーと学校の成績で入って、中学は。守山に佐川美術館ってありますよね。あそこでやっているJリーグの下部組織があつて、そのチームでやっていて、その後、高校からは立守のサッカー部に入ったんですよ。吉田先生っていう先生おられますか？

—多分おられると思います。

吉田先生って人が僕らの時の中学の学年主任で、僕らが上がるタイミングでその人も高校の主任になって、その時にもう毎日怒られていて。なんか中学生の説教部屋みたいなのあるでしょ。そこに僕毎日いて、毎日なんか怒られて、なんか言われて、何を過ごしているんか自分でもわからなかったのが中学生ですね。

でも勉強は普通にできて、上位三〇%か四〇%っていうぐらいで、授業ちゃんと聞いてないけど、テストの点数高得点をとっておけば大丈夫でしょって感じで。多分、僕以外の「聞き書き」の取り組みに出る人は、真面目な人が多いと思います。高校時代は西村さんという人に、よく注意されていました。髪型やワックスのこと、シャツをきちんと入れること、ネクタイをしっかり締めることなど、身だしなみについて毎回のように怒られていて、そんな日々を過ごしていました。ところで、今の話、なんの質問でしたっけ（笑）

＊

—じゃあ、高校時代か中学時代、学生時代に特に思い出に残っていることとかはありますか。

思い出に残っていることは、現代文と社会がぼくらの学年が良く、特に歴史がすごくよくて、今の歴史の授業とか、その社会の授業をどんなことやっているか僕は知らないんですけど、僕らの時になんか、堀健っていう先生がいました。その先生は、例えば歴史とかも、テストでは、六四五年に大化の改新が、なんで起きたかみたいなを記述で書いてください（という問題を出されました）。なんかよくある入試とかやったら、何年かとか、何がなんなんとかの戦いだとかって書いたりするじゃないですか。じゃなくて、これがなんで起きて、これが後々どうなったかみたいなやつを記述で書かせるみたいな感じで。その学び方ができたっていうのが授業としてはあったなっていう、結構思考力がつく学校だったなっていう印象があります。他に思い出はなんやろ。やっぱ、やっぱ部活ですかね。

―たしかに、久泉さんもおっしゃっていたように、授業内課題として、なぜこれがこう起こったのかっていうのを順序立てて説明していく課題っていうのは、今も続いていると思います。

その時が初めてやったのだと思うですよ。上の学年とかはなかったし。その先生が勝手になんか問題を作って、なんか今までの過去問が全然使えへんみたいな感じになっちゃって、何このテストみたいな感じのところから始まったから、多分僕らの高校生、中学生かな？今何年生ですか。

―今二年生です。ところで、久泉さんは文系ですか？

いや、僕理系だったんですよ。部活入りたかったから結果的に経済学部入ったんですけど。経済って一応理系の方じゃないですか。やからそれで経済入ったのですね。

―なるほど。では次に、文化祭とか体育祭なのでイベントとかがいっぱいあったと思うんですけど、その中で印象に残っているものとかはありますか？

あー何やったかな。何年かの際に一回ねぶた作ったのですよね。

―ねぶたってあの青森の祭りのですか？

そうです。一回作って。あれが文化祭で一番良かったなっていう印象がありますね。

―昔でもまだ、この高三が劇をするとかっていうのは？

ありましたね。それで、高一がなんでも作る。高二が教室劇、高三がここで、市民ホールでやるっていう。舞台と席作って、劇をするっていう、教室でやっていましたよ。

―今では高二も高一もどちらも、なんか出し物を作って出すって感じになっていきます。

\*

―サッカー部に入って、部活の中で一番大変だったこととかってありましたか？

一応上下関係がちゃんとあるから。それは僕そういうの嫌いなタイプで、本当に嫌だなんて思ってた。なんか自分でうまいと思っていたから。こんな人たちにこんなこと言われないといけないか思っていたけど。

確かに社会人になってみたら、上下関係も大事だなんて思うし、結構できていない社会人とかいるなって感じます。その頃は、「ちょっと先輩の方が下手なので、僕に敬語使ってもらっていいですか」みたいな感じを言うちよつと生意気なタイプだったんですよ。ははははは

―サッカー部って、もうその時代から強化指定クラブに指定されていたのですか？

してないんじゃないかな。でも、僕らが高校一年生か中三の際に、アイリスグラウンドができました。僕は中学校の時、違うチームのにいたから関係なかったんですけど、バス停のところがあって、ここになんかちっちゃい土のグラウンドみたいなありますね。あそこで、他の部活と、サッカー部が中学、高校みんな練習した。

これって何を残す企画なのでしたっけ？この学校にはどういった学校生活をしてきたかですよ。多分僕、ファームでも書いたんですけど、自由な時間が多いじゃないですか。それをどう使うのかというのが大事だと思っていて。めっちゃくちやそれは思考的なところでも、いろんな情報を取りに行くところとかでも、何かみんなやってみるって企画をするところでも大事だと思っていて。

僕、広島に福山市ってところがあって、福山市の学校に今起業させようっていうプロジェクトしているんですよ。それで、僕の時の二年、三年

の物理の先生が、今その福山の学校に行っているんですね。その学校は中高一貫でその子たちも小中高過こしていて、自由な時間があるけれども、言われた通りにしかしてへんみたいな感じになっているから、結果的になんもしてへん人が多いんですよ。例えば生徒会やったりとか、文化祭でなんかやったりとかって、めっちゃやっている人と、やってない人の二極化してしまうと思います。サボってなんもしないひんけど、評定三のやつと、ちゃんとやっていて評定四・八のやつみたいな。多分チャレンジする場の環境をどう使うかどうかが結構社会人にとって大事なんですよ。

今、星川くんは大学の四年間って、どんなイメージがありますか？

—大学の四年間は僕からしたら、高校生活よりもっと自由な、したいことをなんでもできるような感じのイメージでは。でも結構。遊んでいるようなイメージがありますかね。

人生夏休みってみんな言うんですよ。特にMARCHと関関同立の大学に行けて、勉強しなくても入れて、適当な授業とかなんか適当にしたら単位が取れて、社会人になったら、ある程度大きいところに就職できるだろうみたいなと思っている。

社会で生き抜いていくための準備期間の高校生活を、行動できる時間があるのにサボっちゃうと結果的に、無駄な時間を過こすことになるんですよ。また、たまに留学行ったりする人がいると思うんですけど、その留学も、なんでしたいかっていうよりは、みんなも留学行ってるし、今時間あるから留学行つとこうみたいな気持ちで、社会になった時に、役に立つかどうかわからないけど、とりあえずいつとこみたいな。その後、社会人になってホワイトの会社で働きたい、大手で働きたいとかなるけど、もう残業もあんまりしたくないとか。パワーハラスメント

がどうだ。けど、給料は欲しいとか、そんなんばつか言ってるやつがまあいると。

じゃあ、高卒で、社会人になったやつ。大学受験をして、大学でもちゃんと勉強して、社会人になったやつ。立守みたいな感じの中高一貫で適当に上がって、人生の夏休みを過こして社会人になったやつ。どの人材が社会に必要って言ったら、一番最後の人材が一番いらんでしょう。世の中にとって一番戦闘能力がない社会人コースをみんな着々と歩んでいるから。それが、よく言えばいいような状態で学びができるしこれは、自分で選べるっていうことは僕は良かったなって思うけど、それで迷子にならんようにするために、今からその社会人経験を、ちよつとでもしてもらえような状態にしようとしているのですよ。

＊

—僕の話になっちゃうのですけど今、ちよとやりたいことが見当たらなくて、今迷子になっている状態になっていて。僕は今GLコースで、なにかやりたいことが見つかるかなと思いいGLコースに入って、結構色々なものをやっているけど、なんか自分が最終的に何になりたいのかわからないのが今ちよつとわかんなくて。僕は高校受験してここに入ったんですけど、高校受験して入ってくる時には教師になりたいっていう気持ちがあったので、教師になって、教職を取れたらいいなと思っていたんですけど。どうしたらいいのでしょうか？

多分、そのタイミングで教師になりたいっていうのは、将来のこと考えていて、逆に言うと、それが早いタイミングで意思決定しすぎちゃうと、今自分がイメージがつく職業で、それにかつ価値貢献ができるものが多分教師であるっていう。けど、他にもいっぱいあるからどうしようみたいな感じになっているっていう状況やと思うんですよ。

僕もこんな感じやから。将来美容師とかなりたいたいなみたいな感じの話とかして（笑）親にお前中学から立守入れていんのに、お前専門学校行くとかありえへんやろみたいな、しばくでって感じになって、まあそろそろなみたいた感じになって（美容師は）辞めたんですけど。

要するに僕も多分同じことを高一の時に思っていて、それは教師じゃなくて美容師であつたっていうその違いであつて、その時に何をしたいかつてよりかは、どういう大人になりたいと考えるべきなんですよ。だから、その目先のところだけ見ずに、いろんな人とこの人たちは自分にとつてかつこいいわつて思う人たちのパターンをできるだけ多く出会い増やしていくっていう流れの方が絶対いいですよ。まだいっぱい出会えるから。

そういう風に人生を変えてくれる人とか自分は今もつとこういう風になつた方、いろんな人に会いにいったら、その恩返しができるパターンがあるだとか、そういうのつて色々あるから。変に決めすぎなくてもいいけど。まあ色々やればいいと思うんすよ、多分、文化祭とか体育祭はわからんけど、文化祭とかつて自由にしていいよつていうスタンスに多分、立宇治とか立守はなりやすいんやと思う。

—なんか僕的な解釈なんですけど、自由にしていいつて言われたら、なんか迷うことつてありませんか。そういう時つてなんかありますか。

結論から言ったら、どうなりたいかしだいなので、高校生の時に、その機会をもらい始めると、大学生の時に、そういう風に、こっからも急に自由つてなるわけですよ。高校はもう授業が決まつていて、プログラムは決まつていて、やるけれども、大学で自分で履修科目も組んで、学部も選んで、バイトも自分で選んで、サークルも自分で選んで、何もなかったら何も授業も取れへんみたいな。でも、自分で授業も選ばないと

サークルも選ばれん、どこにも入れへん、何してもいいけど単位を取つてねつていう状況。社会人なつたら、別にどこの会社にも勤めようが自分次第だし、どう稼ごうが、どう働こうが、サボろうが自由にしている。ずつとそんな人生やつて。その状況を高校生の頃から自分で考える練習をしいひんと、社会人なつてもできん。言ったら、そのみんなより先になつていうの。先にやれているつて話や。どうなりたいかはどういう人が、自分が懂れるなつていう人をどれだけ増やすか。そうすると、この人のこの部分とこの人の部分、この部分がいいつて思うことが出てくるから。

＊

何で吹部入つたんですか？

—僕が吹部に入つた理由は、小さい頃からピアノやついて、お母さんもずつと音楽というのもあつてやつていました。けど、中学時代はスポーツしをよふと思つて水泳部に入つたんですけど、自分が心臓の持病を持つていて、水泳があんまり続けられそうになかつたので、吹奏楽の方にいきました。

同じような感じですよ。例えば、別に下手でも、みんなをまとめるやつ。下手かどうか、うまいかとか置いて、めちやくちや練習しているやつ。多分いろんなパターンにいるですよ。いろんなとこに。かつこいいとかつこよくないとか、そんなものは自分の価値観であると思うんですけど。どういう人が自分の中でいいと思うかの、その人生バージョンつて話で。どうなんか聞きたいことなんでも聞いてください？

東京に出たいとかはないの？

―あーでも、東京に行きたいって気持ちはあるんですけど。なんかあんまり。東京でいい場所だと思うんですけど、何ができるのかなって感じで。

なるほどね。でも、東京って来たことある？

―はい。何度もあります。

でも、それ遊びででしょ。仕事とかそういうのは見たことはないでしょ。でも、知りたいのはそこでしょ。じゃあ、そういうの知る機会とか作った方がいいかもしれないですね。例えば、立守の先輩たちが大体どこに勤めているのかとか、大体わかったりするじゃないですか。そういう人たちがどこでどういう仕事をしているのかって知りたいでしょ。だって、社会人で優秀な社会人になるために、みんな学生すごわけですよ。で、その結果どこで学生生活どんな感じで過ごした人たちが、どうなったかわかるわけよ。

―なんか、自分に自信がなくて

でもね、ずっとそれじゃ生きていけないから。社会になったら、自分全部自分の責任になっちゃうから。仕事うまくいくも、いいとこ進められるかどうか、稼げるかも、数字取れるかも、全部自分の責任だから。だって周りのもう高校とか行って大学に行かへんたちは、二年後からもう社会人だから、もう全部自分の責任でやっている子たちもいるわけだから。

―けどなんか先をまず見据えないとわかんないですよ。これからはその先が見つかるかどうかもう気になってきました。

でも、まあ毎日考えて、毎日行動し続けることやから、そういうのは、多分ほとんどの人は今日とかの話で、この部分は確かにそうだなと思うところあっても、みんな行動しないから、結局結果的に、例えば半年

後と一年後にか、あれからどうなった。というのを聞いても、結局何も。みたいな感じになっちゃうから。いや、それは変わらないでしょっていう感じかな。残りどう過ごす。宿題終わった？じゃあもうあととはどう。部活以外の時間は。どう社会、その将来をよりこうなっていたいと鮮明にするために。使う時間として使えるわけですよ。

―まず僕だったらなかなか。人とか関係それな物をまず探します。

例えば？じゃあ、夏休み期間中に何件のコンタクトを取る？。

―三件と。

三件ね。オッケーオッケー。それは決めてやろう。それを繰り返してやるだけやから、ずっと。見えるまでは決めないとやらないでしょ。

―今、その話に繋がると思ったのが一個、海外研修で僕が探究以外で興味があるのが、インターンで。なんかインターンとかってやつ難しいですか？

めっちゃやった方がいいと思うよ。どこの会社にどういう内容かにももちろんよるけど。うちも会社今やって五年目で、計四十人ぐらい、インターンいるよ。やつば社会人とかどんな感じで仕事しているかっていうのが、イメージつきやすいしね。それが日本のとかやったら、普通にすぐに見つかるやろうけど。その、アメリカのとか。立命との繋がりがあってあるところで、インターンができるってなったら、普段はできひんから、いいんじゃない。アメリカとか、例えば他の国とかの異文化と関わるインターンシップが、みんながデイズニーとか言って終わっている修学旅行と違って、ちゃんとプログラムして学びますと。それがとてもいいと思いますよね。

—久泉さんはどんな人物像を目標にして、そこまで今来てたんですか。

僕は就活の目標は、現金で十億を三十歳までに（稼ごう）と思って、今の会社を、丸々全部売ったら多分五から十ぐらいにはなって、多分五億ぐらいは今すぐにもう取ろうと思ったら取れる状況やけど。それが二十二歳の時。それで日本の市場を変えるぐらいの経営者になりたい。今うちは二〇三〇年を目指し、上場のタイミングで目指してやっている。日本で一番の上場企業社長になろうと思ってる。

—そういう、なんか自分になりたい人物像とかっていうのは、やっぱお金とかでもいいですか。

もう金のこだわりはない。多分立守の保護者より僕の方が多分もう金持っているから、もう全然あんまり興味なくても、自分がどうなりたいか、しか今興味ない。そういうのは自分が立てる上でもあんまり。お金を目標にするのはあんまりよくないな。

初めはいいと思う。でもある一定の金を、超えるともうけなくなくなっちゃうから。もうそれ以上お金使わないから普通に生活していて。

ちよっとやらしい話やけど、今家賃七十万の家に住んでいて、月二百万。酒飲んでいても使うことない。だから、月二百万以上は絶対使っている。年間二千五百万を。飲んでいるだけで使っているから。金銭は倍変わるかって言ったら変わんないから。別に牛井は今でもうまいし、電車に乗る。ないと生きていけへんから。学費もかかるし、将来もかかるし、年金何千万問題とか、その、老後何千万まで言われるし。

でもなんか一つを突き詰めないと。そんな稼げないから絶対。保険かけているようじゃ無理やと思う。やっぱビビらずに行くべきです。しか

も若いんやから。絶対将来不安やと思うけど。挑戦することが大切よ。多分。

滋賀県にいるから、絶対学んだ方がいいところでいくと、近江商人とか聞くでしょ。その考えは絶対に正しいから、ちゃんと学んだ方がいい。近江商人って言葉があっても、京都商人なんか言われることもないし、大阪商人なんか聞いたことないでしょ。ちゃんと理解した方がいい。滋賀ってそういう、割と商売に感度が高い。そういう概念が元々基づいているから。滋賀でどういう会社が、何で儲かっていんのかとか。それは、中小企業とか何十年もやっている会社の社長とかとかを巻き込んで、私立だからみたいな感じで学ぶのは絶対いいと思う。多分その人を見ると思っけど、その近江商人っていう考え方は結構あるから、商売には頑張ってください。

—はい！ありがとうございます。

#### 【感想】

今回の聞き書きを通して、久泉さんのお話から、何事にも自分がしたいと思ったことには挑戦することが大切だと学んだ。久泉さんは失敗を恐れず、さまざまなことに挑戦されており、その積み重ねが今につながっているのだと感じた。私はこれまで不安から行動できないこともあったが、まずは挑戦してみることが大切だと気づいた。今回学んだことを、これからの学校生活や将来にも活かしていきたい。

（次ページへ）



右：語り手 久泉 陽さん

左：聞き手 星川 快鏑